

IOT・ICT技術の農業経営への活用



そのとき自分たちは価値を作れるか？



株式会社藤本農園

- ・栽培面積47ha うち水稲36ha
- ・和牛繁殖 6頭
- ・従業員数 8名



- ✓ 中国山地の地域で大規模化は無理
- ✓ 従来の生産・販売では生き残れない
- ✓ 地域の特性を活かした生産でないとコストがかかる
- ✓ 魅力を伝えなければ後継者が育たない

中規模で生産から消費を意識した一貫経営





①安全な生産



②有機資材の生産と活用



③消費者への発信



④次世代の育成

一粒万笑の米作り



農業の課題

生産

- ・労働力の不足
- ・勘に頼った生産技術と練度
- ・生産の安全性の不備
- ・求められる安心への対応

消費

- ・消費者の生活の変化
- ・流通の多様化
- ・消費と生産のかい離

環境

- ・温暖化で自然が激化
- ・里山の荒廃
- ・海外からの輸入

生産の課題の克服

「あれ」「これ」で「何となく」
通じる農業の
終わり

- ✓ 作業情報が分かりやすいか？
- ✓ 圃場の管理と伝達は適正か？
- ✓ 安全への時間を割いているか？
- ✓ 商品情報をトレースできるか？

感覚の農業から管理の農業へ

- ✓ でも時間と手間がかかる！
- ✓ ペンはクワよりも重たい

→ そこでIoT導入を試行

次世代稲作研修会 since1997



- ☑ 本地域に合った技術・資材の検証・普及
- ☑ 技術のアップデートで最新化・最適化を図る
- ☑ 試験データを基に次年度の農業技術を実践



ドローンの可能性

- ✓ 情報収集か、航空農機か
- ✓ 圃場データの共有・集積
- ✓ 管理への所要時間は短縮

- ・現航空法では使いにくい
- ・コストが高い
- ・飛行時間と墜落の危険性



圃場情報の収集・蓄積に有効な農機



やり取りの主流は紙、でもこれからは・・・

規格の違いで
リンクが出来ない



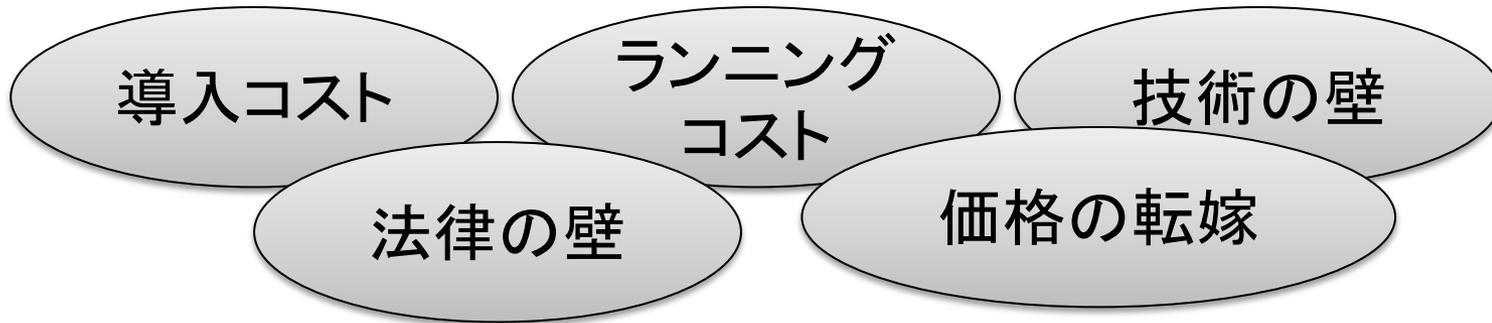
結局既存の様式に
落としこまなければいけない

自動化の衝撃に備えよ



- ・使いやすい法律と電波の整備が必要
- ・今のままではハイパー農家
- ・アップデートが出来るシステムを

農業の課題の克服の課題



- ✓ 導入すべき技術を消費から見分けよう
- ✓ 導入で5S、GAPの推進に
- ✓ 生産・商品情報で差別化
- ✓ ICT・IOTの導入・運用は若手に

環境の課題の克服(ムリ)

- ✓ 情報を素直に聞く
- ✓ 事前に備える
- ✓ 事後に活かす



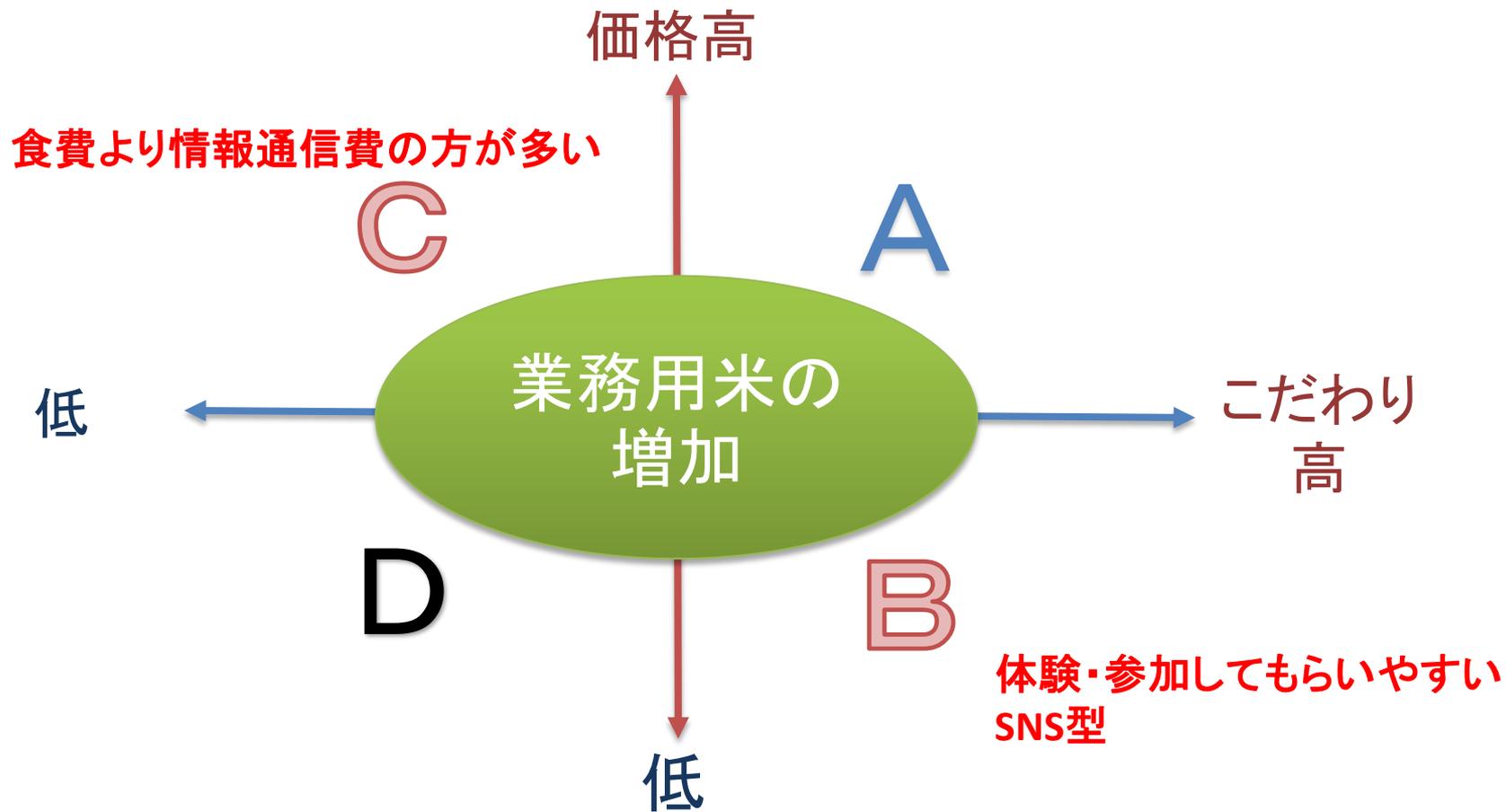
共有し行動する訓練を



消費の課題

- ・働き方改革による消費者の生活の変化
- ・流通の多様化
- ・消費と生産のかい離





新しい農業は新しい価値を内包している



→ 食エンターテインメントの発信源



情報を食べるこの時代に

